

### 新津駅で見られる列車

運行日や乗車方法などはJR東日本ホームページを確認してください。

#### SLばんえつ物語 (SL「C57 180」)



大きな動輪と細いボイラーから「走る貴婦人」と称される蒸気機関車。汽笛を聞きながら列車旅を楽しめます。



#### 柳都 Shu \* Kura



新潟が全国に誇る「酒」がコンセプト。地元の食材にこだわったおつまみや県内の地酒の利き酒を味わえます。



#### 特急しらゆき (E653系)



アイボリーホワイトをベースに、日本海の家と空の青、夕日を表す朱色でデザインされた特急列車。信越本線などを走ります。



### 新津・新潟の主な鉄道史

明治30年	北越鉄道(現在の信越本線)の沼垂〜一ノ木戸(現在の東三条)間が開通。中間駅として新津駅が開業
大正3年	岩越線(現在の磐越西線)の新津〜郡山間が全通。新津〜上野間上り13時間45分
昭和16年	鉄道車両を修理する「新潟鉄道局新津工場」が開業
昭和37年	信越本線の新潟〜長岡間の電化が完成。新潟地区初の特急「とき」の運転が開始。新津〜上野間片道4時間40分
昭和57年	上越新幹線、新潟〜大宮間開通。新津〜上野間片道2時間32分※
平成6年	新津車両製作所(現在の総合車両製作所新津事業所)が開業
平成11年	磐越西線「SLばんえつ物語」が定期運行を開始

※新幹線リレー号利用時

### インタビュー 新津と鉄道の深い関わり

#### 鉄道と共に発展してきたまち

鉄道開通前の江戸時代から、新津は下越地方の交通が交差する町でした。明治30年に北越鉄道(現在の信越本線)が開通し新津駅が開業すると、旅館業や弁当・土産販売業などの商売が発展していきました。大正から戦前までの間に信越・羽越・磐越西線の3路線が交差し、鉄道の機関や車両工場が誘致されたことで、「鉄道のまち」として発展していききました。戦後は鉄道輸送の需要が高まり、新津には多くの労働者が集まりました。最盛期には「就業者の4人に1人は鉄道関係者」といわれるほど、鉄道は新津の人たちの暮らしと深く関わっていました。

#### 新津の鉄道文化を知ってほしい

新津は、鉄道という1つの産業から大きな影響を受けて発展してきた「鉄道のまち」で、この歴史は全国的に見ても珍しいものです。当館では、新津と鉄道に関する歴史的な資料と、当時の人たちの記憶を収集し、解説を交えながら展示しています。かつて時代の最先端を走った交通機関と、その拠点として共に歩みにぎわいを見せた新津の物語を、ぜひ一度たどり来てください。



新津鉄道資料館 学芸員 岩野



自走して新津第一小学校へ向かうSL(昭和44年)



シャッターアート



ラッピングポスト

### 鉄道文化が息づく商店街

新津駅東口にある「にいつ鉄道商店街」では、鉄道と共に栄えてきた文化を次世代に残すため、鉄道に関する資料やオブジェなどが商店街の至る所に設置されています。



実際に使われていた警報機



レール断面



SLの動輪

店と店の間に踏切警報機があったり、アーケードに駅のホームの案内板がつるされていたりと、鉄道に詳しい人もそうでない人も、歩いているだけで楽しめると思います。ちょっとした散歩にもぴったりなので、ぜひ一度来てみてください。



にいつ鉄道商店街 川名 伸明さん